

令和 6 (2024) 年度 IAMASの概要説明





情報科学芸術大学院大学

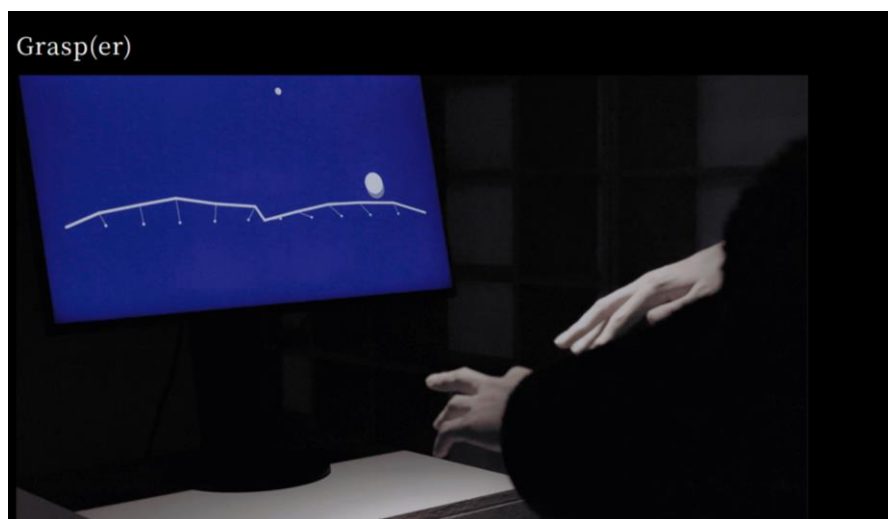
Institute of Advanced Media Arts and Sciences

— 目次 —

組織の概要	3
活動の概要	10
運営の概要	31

IAMAS の目的

情報科学芸術大学院大学〔IAMAS〕は、科学的知性と芸術的感性の融合を目指した学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥をきわめ、未来社会の新しいあり方を創造的に開拓する「高度な表現者」を養成するとともに、学術文化の向上及び地域の振興に寄与することを目的に、岐阜県が2001年に開学した大学院大学です。



山岸 奏大（修士2年）『Grasp(er)』
ISCA2023（INTERNATIONAL STUDENTS CREATIVE
AWARD 2023）デジタルコンテンツ部門 優秀作
2023 アジアデジタルアート大賞展 FUKUOKA 学生カテゴリー
インタラクティブアート部門 大賞/総務大臣賞

－ 沿 革

- 1996 岐阜県立国際情報科学芸術アカデミー（IAMAS）を設立
- 2001 情報科学芸術大学院大学を開設
メディア表現研究科（修士課程）を設置
大学附属研究機関メディア文化センター（CMC）を設置
大学附属図書館を設置
- 2005 リンツ美術工芸大学と交換留学生協定
- 2010 メディア文化センター（CMC）を産業文化研究センター（RCIC）に改名
- 2012 岐阜県行政改革アクションプランにより国際情報科学芸術アカデミーを廃止
- 2014 ソフトピアジャパン地区へ、全学移転
- 2021 メディア表現研究科（博士後期課程）を新設

教 育 目 標

情報科学芸術大学院大学は建学の理念に基づき、新しい文化を創造する高度な表現力を授け、現代社会の諸問題に応答できる人の育成を教育目標として掲げています。

－ 学位授与方針（ディプロマポリシー）

情報科学芸術大学院大学は建学の理念に基づき、科学技術と哲学・思想的視野をともなう新しい文化を創造する高度な表現者の育成を目標とし、その目標のために編成されたカリキュラムにおいて、所定の単位を取得することに加え、論文審査あるいは作品・論文審査、及び最終試験を合格した学生に修了を認定し、学位を授与します。

その際、以下の点が問われます。

- － 専門性を有した自立したアーティスト・デザイナー・エンジニア・研究者・教育者として、必要な能力を身につけたか。
- － 高い倫理性と強い責任感を意識し、未来の人間の生き方、幸福を追求しながら、研究が現代社会の諸問題に対する応答として成果を得ることができたか。
- － 研究領域によらず様々な分野を専門とする人々とも互いに積極的に関わりあい、その交流の中から生み出される「新しい知」のあり方を身につけたか。

－ 教育課程編成・実施の方針（カリキュラムポリシー）

情報科学芸術大学院大学は建学の理念に基づき、新しい文化を創造する高度な表現力修得を目指し、体系的に専門性を獲得するための実践的かつ領域横断的な科目を配置し、講義、演習、実習等を適切に組合せた高度な授業を開講するとともに優れた研究指導を行います。

- － 高度な表現者としての素養を身に付けるとともに、社会の多様な要請に対応した幅広い知識と実践力を修得するため、プロジェクト科目および特別研究科目を設置する。
- － 自らを批評し研究成果の社会的意義を問うための総合科目を設置する。
- － 専門的な方法論と知識を体系的に学ぶために専門科目および制作演習科目を設置する。
- － 問題発見力、課題探求力、問題解決力、表現能力、コミュニケーション能力など、研究において必須となる汎用的な能力を育成するため導入科目を設置する。

－ 入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）

多様な背景を持った学生により高度な学習機会を与えるために、積極的な情報発信を行い、面接を主体とした多様な入学者選抜を実施しています。その際、以下のような学生の入学を想定しています。

- － 自らの専門領域を活かし、他分野と横断的な探求をする。
- － 情報社会の新しいあり方を創造的に開拓する。
- － 人や社会との新しい関係性を考え、次世代の産業を創出する。
- － 様々な形態の芸術表現から新しい文化を創造する。
- － 情報やコミュニケーションに新たな形を与え、地域社会に提案する心豊かな社会の実現をめざす。

全ての大学等において、以下の三つの方針を一貫性あるものとして策定し、公表するものとする。

①修了認定・学位授与の方針、②教育課程編成・実施の方針、③入学者受け入れの方針

（学校教育法施行規則一部改正平成28年3月31日改正、平成29年4月1日施行）

学 生

- 芸術、情報、工学、社会科学の出身者等、分野の多様化が進んでいます。
- 社会人経験者が2～4割を占めます。
- 全国各地からの学生構成となっています。

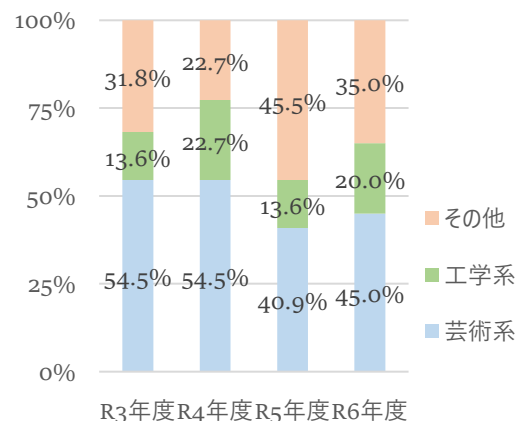
- 修士課程 学生受入状況（人）

	入学者（倍率）		性別		出身地別			経歴別					社会人
			男	女	県内	県外	外国	大卒業	院修了	高専	研究生	専門学校等	
R6年度	19	(1.9)	10	9	1	17	1	19					2
R5年度	22	(1.9)	11	11	2	17	3	20	1			1	5
R4年度	22	(1.3)	17	5	2	18	2	20	1			1	8
R3年度	22	(1.6)	13	9	7	12	3	18	3			1	8
R2年度	18	(1.8)	10	8	2	11	4	17				1	4

- 博士後期課程 学生受入状況（人）

	入学者（倍率）	性別		出身地別			大卒業	院修了	経歴別			専門 学校等	社会人
		男	女	県内	県外	外国			高専	研究生			
R6年度	2 (1.5)	2	0	0	2	0		2					2
R5年度	3 (1.3)	2	1	0	3	0		3					2
R4年度	2 (1.0)	1	1	1	1	0		2					2
R3年度	3 (2.0)	3			3								3

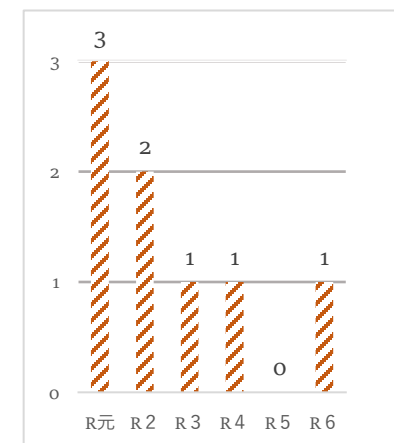
- 出身分野（%）



- 出身大学等

- R6- 東京外国語大、武庫川女子大、武蔵野美術大、慶應義塾大、福島大、大阪芸術大、岡山県立大、会津大、法政大、熊本県立大、名古屋芸術大、近畿大、成安造形大、大阪公立大、京都市立芸術大、university of the arts london、大阪（院）、上海戯劇学院
- R5- 舞鶴工業高専、多摩美術大、大阪芸術大、立命館大、京都産業大、武蔵野美術大、東京女子大、玉川大、京都工芸繊維大、学習院大、東京大（院）、京王義塾大、東京造形大、慶應義塾大、早稲田大（院）、IAMAS（院）、名古屋大学（院）、University of Southern California
- R4- 大阪芸大、早稲田大、明治大、名古屋造形大、多摩美術大、金沢美工大、九州産業大、電機通信大、立命館大、関西学院大、東北大、秋田公立美大、東京理科大、岡山大、東北学院大、岐阜大（院）、名工大（院）、IAMAS（院）、CHAINA UNIVERSITY OF GEOSCIENCE

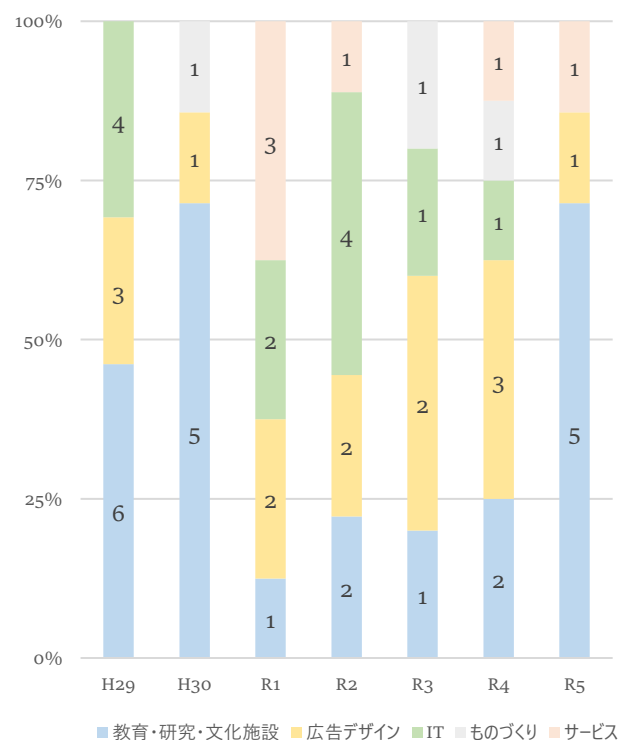
- 研究生の受入状況（人）



進路

- 教育機関や文化施設、広告やデザイン系企業への就職が多い傾向となっています。
- フリーランスや自営でデザインやアートなどクリエイティブな仕事をする者もいます。

- 進路状況（人）



- 修了生の進路

- 就職先（過去の主な就職先）

- 県内

(株)インフォフォーム、(株)TAB、本巣市地域おこし協力隊、岐阜各務野高等学校、中村直永デザイン事務所、Fresh Lab Takayama、(公財)ソフトピアジャパン、(株)GOCCO、ちよいみセキッピン、IAMAS

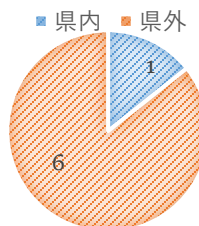
- 県外

NHK、名古屋音楽大学、(公財)京都芸術文化協会京都芸術センター、(株)オルタスジャパン、多摩美術大学、(株)サイバーエージェント、(株)ケイズデザインラボ、ユカイ工学(株)、(株)日本テレビアート、(株)二番工房、京都造形芸術大学、(株)プロノハーツ、Noiz Architects、NTTインターコミュニケーション・センター [ICC]、(有)BANZAI CREATIVE、愛知淑徳大学、Takram desing engineering、(株)電通、(株)博報堂プロダクツ、(株)カヤック、(特非)こどもNPO、山口芸術情報センター[YCAM]、京都精華大学、秋田公立美術大学、(株)ゼオ、(株)QUANTUM、神戸芸術工科大学、(株)ライゾマティクス、名古屋芸術大学、(株)Hakbee Lanka、(株)桃鶴堂、(株)丹青社、1-10 drive、都城市立図書館、東京藝術大学、静岡文化芸術大学、同志社女子大学、関西学院大学、ANKR、DESIGN、SODクリエイト(株)、チームラボ(株)、EPFJ(株)、北アルプス国際芸術祭実行委員会事務局、ローランドディー・ジー(株)、(株)HAPPY ANALYTICS、(株)日本ビジネスプレス、(一財)JR東日本文化創造財団

- 進学（過去の進学先）

京都市立芸術大学大学院美術研究科博士（後期）課程、慶應義塾大学大学院後期博士課程

- 就職先県内外別R5（人）



組織図



教職員数

	教授	准教授	講師	助教	教員合計 (左計)	事務局 職員	専門職等
大学院大学	14	5	0	0	19	10	13
(うち女性)	(1)	(2)			(3)	(7)	(6)

RCIC

- 産業文化研究センター（Research Center for Industrial Culture 通称RCIC）は2011年度より開設されたIAMASの附置研究機関です。
- 産業文化に関する学際的・総合的な研究を行うとともに、学外の諸機関との連携を図りつつ、本学の社会的機能を維持・発展させることを目的とし、「地域連携・産学官連携活動」「広報・情報アーカイブ活動」「文化活動」の3つを軸として活動しています。
- 近年は、県内の自治体や企業とのネットワーク構築や、IAMAS卒業生との連携・協力等によるIAMASネットワークの強化にも力を入れながら、様々な活動を展開しています。

地域連携・産学官連携活動

❖ メディア表現を活用した体験型学習のデザイン 「イアマスこどもだいがく2024」

IAMASの研究や設備を用いた子ども向け講座で、様々なメディアを使用したユニークな表現体験から、テクノロジーを多様に活用する力、延いては新しい「もの」や「こと」を創造する力の育成を目指し、2017年から大垣市と連携し毎年実施しています。

2024年度講座

ワークショップ「もしもしワールド ～糸でんわから考える通信コミュニケーション～」

開催日時・場所・対象・定員

午前の部：2024年7月27日 10:30 ～ 12:00

午後の部：2024年7月27日 13:00 ～ 16:00

場所：ソフトピアジャパン・センタービル 12F C1202

対象：大垣市内の小学3年生～6年生

定員：各回10人

内容

糸でんわを使った遊びを通して、インターネットの仕組みや、人と人とのあいだのやり取りなど、「ネットワーク」を体感します。そこから、お互いを想像したり、伝わらないもどかしさを感じたり、伝えかたを工夫する楽しさを体験し、私たちのコミュニケーションとは何かを考えました。



広報・情報アーカイブ活動

❖ Kioskを使用したポスター展示

Action Design Research Projectが制作した空間デザインシステム「Kiosk」を使用して、IAMASの学校紹介とRCICの連携活動報告展示を行います。ポスター展示だけでなく、IAMAS School Guideや大学院紀要など、各種印刷物の配布も行います。

2024年度展示：

「IAMAS OPEN HOUSE 2024」

日程：2024年7月20日(土)～21日(日)

場所：ワークショップ24 5F W508
プロジェクト室



文化活動

❖ OPEN HOUSE

メディア表現研究科の教員と在学生在が多様な研究成果を発表するイベントです。本イベントは学校紹介や進学相談の機会も担っています。科学的知性と芸術的感性の融合を目指した理論と応用を実践する研究科の取り組みを来場者と共有することを目的として、毎年開催しています。

IAMAS OPEN HOUSE 2024

2024年7月20日(土)～21日(日) 10:00～17:00

実施形態：対面開催

URL www.iamas.ac.jp/openhouse/

❖ Ogaki Mini Maker Faire 2024

2024年11月23日(土)～24日(日)

場所：ソフトピアジャパン・センタービル

実施形態：対面開催

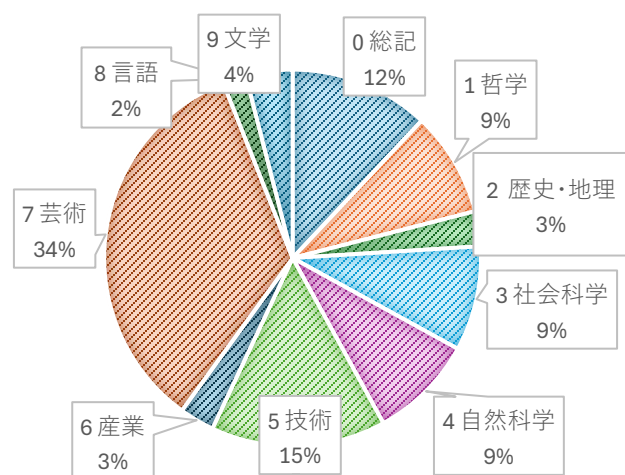
URL <https://www.iamas.ac.jp/ommf2024/>



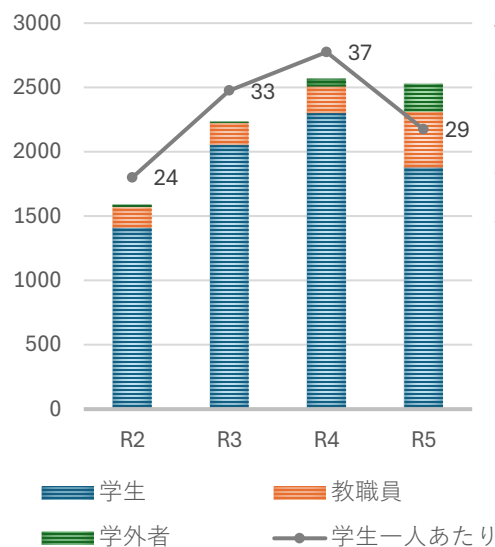
附属 図書館

- 教育研究支援...メディア表現の教育研究に資する資料を重点的に収集しており、蔵書構成では総記(情報)、技術、芸術の分野の割合が大きい
- 地域貢献...学外者(県内在住・在勤)の利用にも対応しており、地域に開かれた図書館として機能している
- その他...移転後10年が経過し、所蔵スペースの見直し等、環境整備が喫緊の課題となっている

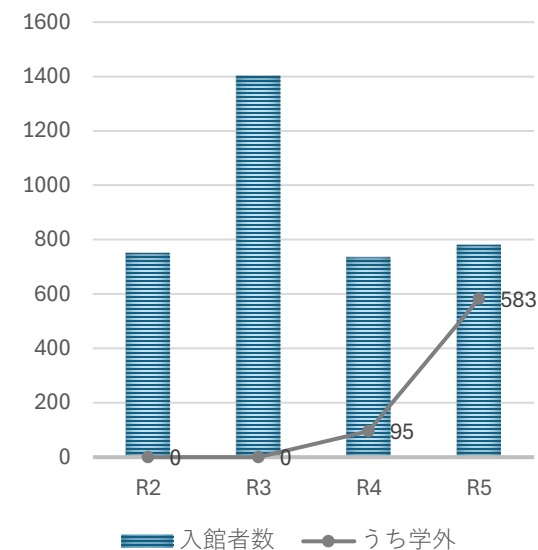
・分類別蔵書割合



・貸出点数



・入館者数



－ 蔵書数（R6.3現在）

図書	49,071冊
視聴覚資料（DVDなど）	3,323点
雑誌	158種
データベース	3種
電子ジャーナル	6種

－ 環境整備

- R6 予定
- ・除籍を含む図書資料の整理
 - ・不要なコーナーの解体と雑誌を含めた書架配置の見直し
- R7年度予定
- ・視聴覚資料の整理と館内閲覧環境の整備



教 育

- IAMASでの授業は、個人、グループ、社会という構成を特色としています。「特別研究科目」は研究活動に対する課題解決に必要な方法等を習得するゼミ形式によるチームティーチングを特色とする科目です。
- 制作演習は、プロジェクト実習や個人制作を行うにあたって重要と思われる実践的なスキルを習得することを目的とした授業です。
- 2019年度から「社会人短期在学コース」を設置しました。また、2021年4月に博士後期課程を開設しました。

- 博士後期課程の設置（2021年4月開設）

IAMASは、修士課程のみの大学院大学として、最新の科学技術や文化を吸収しながら先端的な「芸術表現やデザイン、新しいコミュニティやものづくりのあり方などを社会へ提案し、実践的な研究を通じて「高度な表現者」の育成を目指してきました。

しかし、大学院において設置が一般的な博士後期課程が無いことで（国公立大学における博士課程設置率は約85%）、優秀な人材が他大学を選択したり、IAMASを卒業後に、さらに研究を継続したい学生がやむを得ず他大学の博士課程に進学するなどの課題が生じています。

そのため、修士2年、博士3年、計5年間の一貫教育研究体制を整備し、大学の魅力度を高め、社会実践力のある研究成果を生み出せる体制整備を目的として、博士後期課程の新設を申請し、2020年10月に文部科学大臣より認可を受け、2021年4月に開設しました。

[博士後期課程]

開設年月：2021年4月

修業年限：3年

入学定員：3人

[2021年度入学者]

出願者数：6名

入学者数：3名（男性3名）

[2022年度入学者数]

出願者数：2名

入学者数：2名（男性1名、女性1名）

[2023年度入学者数]

出願者数：4名

入学者数：3名（男性2名、女性1名）

[2024年度入学者数]

出願者数：3名

入学者数：2名（男性2名）

- 社会人短期在学コースの設置

本学は、2019年度より社会人短期在学コースを設置しました。

このコースは、作品制作や社会活動など何らかの実績がある人々や、企業などで先駆的な研究・開発テーマに取り組んでいる人々を対象とし、本学でそれらの実績を基に研究を進めることを前提として、通常は2年間の大学院修士課程を1年間に凝縮したカリキュラムで実施するコースです。

[コースの特徴]

通常は2年間の修士課程が1年間に凝縮されている他は全く同じ内容のコースとなっており、夜間や休日に開催される独立したコースではありません。

このため、自らの活動を振り返り、関連する分野について学び、徹底的に言語化することに集中できます。また、同時期に在学する他の学生と一緒にチームとして活動することを通じて、異分野の刺激を受け、修了後も継続する関係性を構築することができます。

[2021年度入学者]

入学者数：2名

[2022年度入学者数]

入学者数：3名

[2023年度入学者数]

入学者数：1名

[2024年度入学者数]

入学者数：0名

研究

プロジェクト型研究:

- IAMASの研究の中心の一つにプロジェクト研究があり、研究の関心や方向性が示されます。これからの社会における創造や新しい社会を創るデザインをテーマにした研究が増えています。
- プロジェクト研究では、広い視野と企画力、組織力、加えてアイデアを実現に導くマネジメント能力などを身につけることを目指します。

体験拡張表現プロジェクト

リアルタイム時空間・情報空間における体験には、高度なテクノロジーと表現が必要とされます。テクノロジーを使いこなし、テクノロジーに適した高度な表現を研究することで新たな体験拡張の創造をもたらす表現を目指しています。情報工学、認知科学による知見を利用しながら、コーディングによる表現、xR技術や視覚・聴覚以外を用いた複合的な体験を対象とした研究を行っている。また音楽体験の拡張を目指す実験プラットフォームNxPC.Labにおける音楽イベントとの連携による実践的な展開を進めています。

研究代表者：平林真実教授、
研究分担者：前田真二郎教授、小林孝浩教授、飛谷謙介
2021年度～

●2024年度の活動

テクノロジーを用いた表現としてVR/AR/MRといったxRの利用、新たなインタラクションの可能性を模索する作品等の研究を実施している。北海道情報大学で開催された情報処理学会エンタテインメントコンピューティングにて平林および学生2名がデモ展示を行った。また、東京コンピュータサービス（株）とMRの共同研究も実施している。NxPC.Labの活動においては、オープンハウスでのイベントの実施の他、大垣市民プールでのイベントへの参加、Ogaki Mini Maker Faireでの実施を予定している。

- ・IAMASオープンハウスにおける作品展示（7月）
- ・情報処理学会エンタテインメントコンピューティング2024発表（2024年9月）
 - 舞台照明器具を用いたマルチカースイッチングアニメーションの提案と実験
 - モバイル型入出力装置を用いたムービングライトとの新しいインタラクション
 - 薄暗い場所におけるAR表現のための手法とコンテンツの検討
- ・NxPC.Lab における音楽イベント
 - NxPC.Live vol.69 うい @IAMAS Gallery1 2024.6.15
 - NxPC.Live vol.70 交通の要所 爆音にて @IAMAS Gallery2 2024.7.20



運動体設計

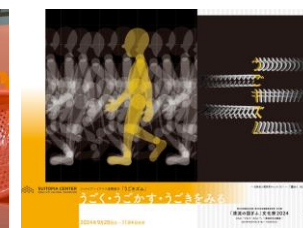
運動体とは、時間の経過とともに空間内の位置を変える現象や活動と定義し、日々の実践を遂行するための知見や方法論を探索します。アイデアを具体化するためのプロセスを検証し公開することを目的とします。任意グループ「クリティカル・サイクリング」の約6年間の実践を基盤とし、萌芽プロジェクト「プラクティカル・サイクリング」を経て、このプロジェクトを実施します。

手法としては、「運動体」にまつわる何らかの実践が芸術的、社会的、学術的な意義に繋がることを検証します。ここでの実践とは、グラフィック、詩、映像、ワークショップ、など様々な展開が想定されます。

研究代表者：瀬川准教授
研究分担者：赤松教授、桑久保教授
2023年度～

●2024年度の活動

- ・ Critical Cycleing (<https://criticalcycling.com/>) への記事投稿：4月～
- ・ エッジツーリング（能登）5月
- ・ ワークショップ・講座（空間コンピューティング）6月
- ・ OPENHOUSE2024（早朝ライド・作品展示）7月
- ・ スイピアセンター連携事業（作品展示）：9月～



The Art of Listening

「きくこと」は人と人が関係する全ての営みの土台だといえます。そして、「きくこと」は私たちの研究や表現活動においてもとても重要です。個人のナラティブから公人のインタビューに至るまで、リサーチャー、フィールドワーカー、アーティスト、アーキヴィスト、エンジニアなどが、「きくこと」の実践を行っています。一方、語ることは、語り手と聞き手の相互行為による共同生成でありながら、「語り」に注目が集まり、「きくこと」に対してはあまり議論されていません。実際、多くの人たちにとって「きくこと」は受動的と思われるのかもしれませんが、また、「きくこと」は過去や現在に関わる行為であって、それが未来へつながるとはあまり考えられていません。AOLでは、「きくこと」を表現技法として位置づけ、その方法論や実践、哲学的意義にアプローチすることを通じて、自発的で創造的な行為として考えていきます。

研究代表者：金山智子教授

研究分担者：吉田茂樹教授、松井茂教授

● 2024年度の活動

* プロジェクトの活動公開

AOLのウェブサイトにて活動を公開

* 前期-きくことをテーマとしたワークショップ

2024年7月の本学オープンハウスにて、履修生たちで顔なし問答フォンを企画・実施しました。現在では見かけることの少なくなった電話機を用いて、顔の見えない人と声によるコミュニケーションを実施し、そこで話す人と聞くひとが互いに「きく」という行為の多様性について体験しました。

* 後期-聞くことをテーマとした企画調査の実践

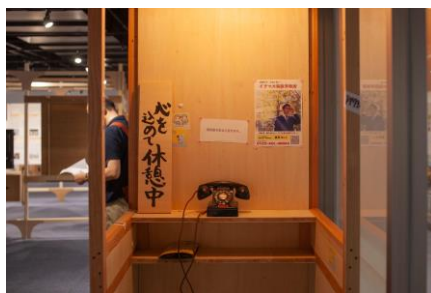
教員と学生が各自の関心ごとを元に企画や調査を実践していきます。

- 「To Do List」を使った記憶と想起のワークショップ
- Vtuberの語尾に関するリサーチ
- 異なる考えを持つ人々をファシリテーションする実験
- ゲームの記憶に関するワークショップ
- 池田町有線放送電話の放送アーカイブデータを用いたアートベースドリサーチ

* 大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ2024（秋山）および シンポジウム「世界の中の秋山郷」（ティム・インゴルド氏スピーカー）参加



電話システムの開発と実験



顔なし問答フォン（オープンハウス）

福祉の技術プロジェクト

身の回りに潜む身近な課題等を技術を使って解決し、人々の生活を豊かにする活動を行なっています。ここでの福祉は、障害者福祉、高齢者福祉などに限定することなく、幅広いテーマを扱います。また、2021年より防災も一つのテーマに加え、毎年発生する災害から、我々自身どのように備えるか、学校での備え（教育）はどうすべきか、などの活動も行ってきました。

特別支援学校の先生と教材開発を継続し、今年度もICT教材作りをより手軽に行えることを目的とした教材開発プラットフォーム、causal SW（コーザルスイッチ）の提案を行なっています。

研究代表者：山田晃嗣教授、研究分担者：小林孝浩教授

●2023~2024年の活動

- IAMASオープンハウス2024

オープンハウスで各PJメンバーが取り組む内容をパネルにて展示しました。

また、子供向けワークショップ等で、表情をうまく表現できない子供がいた、という経験から、表情筋発達のためのプロトタイプを制作して展示しました。

日時 2024年7月20日(土)、21日(日)

場所 ワークショップ24 5階プロジェクト室

- causal SW調理ワークショップの実施

昨年度実施した内容が好評だったことから、先生に教材を作成して頂く機会（調理ワークショップ）を開きました。

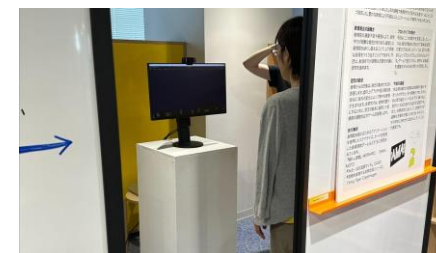
（写真右下）また、使用した授業実践を見学しました。（写真左下）

ワークショップ実施：2024年8月23日(金)

場所 岐阜県立大垣特別支援学校



オープンハウスでの展示



表情筋の発達を目的としたプロトタイプを展示



授業実践を見学：2023年10月17日（火）

場所：大垣特別支援学校



causal SW調理ワークショップ

場所・感覚・メディア Place Sense Media

センサリー・メディア（感覚メディア）としての映像や音響による「場所」の表象を多角的に捉え直し、芸術表現の可能性を探求します。3年目となる2024年度は、様々な領域からゲストを招き「身体-環境」「自然-文化」の関係的な問題を学ぶと同時に、野外活動や場所体験を重視し、取り組んでいきます。さらにその成果として、参加メンバーによる自主企画や展示イベントを計画、開催していきます。

研究代表者：前林明次教授
研究分担者：小林孝浩教授
2022年度～

●2024年度の活動

芸術表現研究では、映画『オランダの光』(2003)を鑑賞し、アンビエンス・知覚・表象の関係性について議論をおこないました。

フィールドワークとして、金生山明星輪寺を訪問しランドスケープの体感、石灰岩というモノの受容の変遷について学びました。また『養老天命反転地』を訪問・体験し、『切り閉じる技術-ARAKAWA+GINSと世界原理』（稲垣諭）を参照しながら新たな芸術概念について学びました。

8月～9月には、池田町「場所かさじゅう」に於いて、書とお茶、戦争体験者の声を聞く催しに参加しました。そこでは音声の編集、音響装置の設置を担当しました。

写真上段：映画『オランダの光』、養老天命反転地での実習風景
中段：金生山での学生の実習風景
下段：書とお茶会でのサウンドインスタレーション



Collaborative Design Research Project

消費を前提とした社会的な閉塞感からサスティナビリティへ移行しつつある中で、問いやデザインのあり方が問われています。特に地方や企業において、デザインがひとつのツールとして捉えられる傾向があり、デザインプロセスの理解や関わりも含め関係性を再検討し、新たな問いへ取り組まなければなりません。これまでの原因と結果に基づいた近代的デザイン方法を乗り越えるためにも、デザインする人と対象との関係や全体性も含めデザインが関係・影響する範囲を検討していきます。地域の企業や自治体らと対話を進め、デザインの役割について調査します。互い目的が交差するプロトタイピングや共同研究へ向けた前段階の対話も含め、研究テーマへのフレームの設定やビジョンの共有、あるいはプロセスの理解も含め、関わりについて調査していきます。またデザイン方法論を取り入れて活動しているデザインコンサルタントや実践企業、あるいはアカデミックな専門家に対してインタビューを実施し、実例やその後の追跡も含め調査します。デザインと実際の対象間をブリッジさせ、その上に立ったことで得られる新しい視点を通して、今後のデザインについて検討していきます。

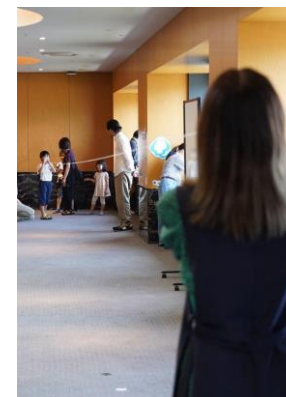
研究代表者：鈴木宣也教授
研究分担者：赤羽亨教授
2023年度～

●2024年度の活動

2024年7月27日
大垣市共同研究：イアマスこどもだいがく
場所：情報科学芸術大学院大学

イアマスこどもだいがくでは、IAMASで実践している領域を越えた新しい「もの」や「こと」を創造する研究、教育理念を小学生向けに展開し、2017年から大垣市と連携してユニークなワークショップを実施しています。

2024年度は、「もしもしワールド ～糸でんわから考える通信コミュニケーション～」と題して、糸でんわを使った遊びを通して、インターネットの仕組みや、人と人のあいだのやり取りなど、「ネットワーク」を体験しました。お互いを想像したり、伝わらないもどかしさを感じたり、伝えかたを工夫する楽しさを体験し、私たちのコミュニケーションとは何かをワークショップを通して考えました。



Extreme Biologies

We find ourselves in an era marked by the convergence of biotechnological advances and human culture, a convergence that propels us into uncharted territories. The familiar Darwinian narrative, with its emphasis on biological evolution as the primary driver of change, now gives way to a narrative shaped by the currents of cultural values. We are navigating a “post-Darwinian era,” a landscape where the evolution of life is steered not only by the forces of biology but by the intricate interplay of ideas, beliefs, and human agency. In the wake of the paradigmatic shift towards a “post-Darwinian era”, this project will explore the role of media art in relation to questions of evolution, ecology, global warming, pollution, co-existence, biotechnology and the presence of what we might term “extreme biologies.” This exploration seeks not only to understand but to actively engage with the evolving nature of life on Earth. It is an acknowledgment of the agency of culture and technology in shaping the trajectory of evolution, a recognition that cultural values, ideologies, and technological innovations are active players in the evolutionary game.

研究代表者：ホアン・マヌエル・カストロ准教授
研究分担者：前林明次教授、菅実花准教授
2024年度～

● 2024年度の活動

- ・ バイオテクノロジーと文化的価値観のもつれに関するディスカッション（6月・7月）
- ・ 大垣市加賀野にある三城公園とIAMAS近隣においてコケと微生物を採集するフィールドワーク（6月・7月）。
- ・ コケ、クマムシ、線形動物、ワムシなどの観察と実験（6月・7月）
- ・ IAMASのOPEN HOUSEにて、研究活動についての展示（7月）
- ・ バイオテクノロジーや生命の進化に関するディスカッション（9月・10月・11月）
- ・ 岐阜県内でクマムシを採集するフィールドワーク（10月）
- ・ クリプトビオシス（隠された生命活動）の観察と実験（10月・11月）



テクノロジーの〈解釈学〉

テクノロジーのうち人工知能に代表される高度で複雑化したハイテクノロジーは、単なる道具に還元されブラックボックス化されるか、不可避で抗えない変化をもたらすものとして扱われる傾向にあります。本プロジェクトでは、テクノロジーに関する責任を手放さず、かといって決定論的なものとして絶望しないための方策として、自在に〈解釈〉ができるという考え方に基づく作品群を提示すると共に、それらの作品群と体験者たちの経験を基に「テクノロジーの〈解釈学〉」として理論化することを試みます。また、テクノロジー／テクニクスの語源であるテクネー（技術知）は、アルス（芸術）や技芸をも意味する広義の概念であることを踏まえ、近代技術や機械技術に基づく今日のテクノロジーを、それ以前の技術的パラダイムに対して特別視する状況を再考します。

研究代表者：小林茂教授
研究分担者：大久保美紀准教授
2024年度～

● 2024年度の活動

前期

- ・ 展覧会「遍在、不死、メタモルフォーゼ」（京都市）鑑賞・議論（5月）
- ・ 平井靖史『世界は時間でできている』（青土社、2022）輪読（6～7月）
- ・ ジャワ舞踊を基につつ、ネオ・サイバネティクスの世界観に関連したダンスワークショップの開催（7月）講師：佐久間新（ジャワ舞踊家）
- ・ 過去に制作されたメディアアートなどの作品の再制作に向けての調査と議論（6～7月）

後期

- ・ 文献購読（9～1月）
- ・ 3点ほどの作品の再制作（9～1月）
- ・ 展覧会「IAMAS ARTIST FILE #10 繭／COCOON:技術から思考するエコロジー」開催（岐阜県美術館、1～3月）および関連した研究会などの開催



佐久間新さんによるダンスワークショップの様子

外部資金研究

- 公費や財団助成による研究、受託や委託研究と多くの研究が実施されています。
- 一般財団（小川科学技術財団など）の助成を受けている教員も3割程度あります。
- 他機関の研究に研究分担者として参加する教員も増えています。

- 外部資金研究

科学研究費 / 日本学術振興会 Grant-in-Aid for Scientific Research

- 基盤研究 C 鈴木宣也教授
R5-R7 描画支援技術に対応したヴィジュアル・リテラシーの再定義と教育プログラムの開発
- 基盤研究 C 松井茂教授
R5-R7 音響技師 菊池信之の映画音響表現技法研究
- 基盤研究 C 赤羽亨教授
R5-R9 鑑賞者主観情報と時空間データによるVRアーカイブシステム開発
- 基盤研究 C 飛谷謙介准教授
R5-R9 鑑賞者主観情報と時空間データによるVRアーカイブシステム開発
- 基盤研究 B 飛谷謙介准教授
R6 感性個人差指標 Affect-X の構築とビスポークAIサービスの基盤確立
- 基盤研究 C ◎松井茂教授
R6-R8 「間展」の間、磯崎新の間——ポストモダニズムの美学を再考する
- 基盤研究 C ◎平林真実教授
R6-R10 暗所におけるARを実現する手法と暗所におけるAR表現の探究

◎ = 研究代表者

- 公益財団法人小川科学技術財団研究助成金

- R1-R2 重要民俗無形文化財の継承支援のための四次元データアーカイブ（小林孝浩教授）
- R1-R2 デジタルファブリケーションを前提としたデザインシステムの開発（赤羽亨教授）
- R5-R7 XR技術を活用した博物館展示デザインに関する研究（赤羽亨教授）

- 大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 国際日本文化センター

- 重点共同研究 ◎松井茂准教授、前田真二郎教授、伊村靖子講師
- R1 マス・メディアの中の芸術家像

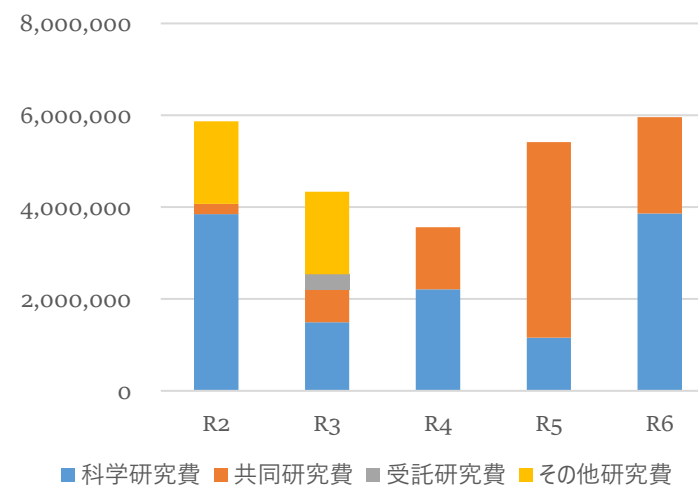
- 京都大学人文科学研究所

- 共同研究拠点 ◎三輪真弘学長、松井茂准教授
- R1 「システム内存在としての世界」についてのアートを媒介とする文理融合的研究

- COI拠点「感性とデジタル製造を直結し、生活者の創造性を拡張するファブ地球社会創造拠点」（国立研究開発法人科学技術振興機構）

- H25-R3 小林茂教授

- 外部資金調達額 ※R6年度は8月末まで



受賞

IAMASの学生・教員は、毎年、各種の分野で賞を受賞しています。修了生の活躍については、近年ますます注目されています。

—2024

Scott Allen（2016年卒業）
『Unreal Pareidolia -shadows-』
CVPR2024 AI Art Award Winners the best artworks

篠田幸雄（2017年卒業）
『causal SW（コザルスイッチ）：さわれる電子工作応用教具づくりの素材』
令和6年度 第40回 学習デジタル教材コンクール 日本児童教育振興財団賞

岡本悠里（博士前期課程2年）
『月の声を聴くための言葉』
令和5年度ジャグワ作品展 出版印刷物部門 印刷時報奨賞

菅野創（2009年卒業）、加藤明洋（2018年卒業）、綿貫岳海（2018年卒業）
『かぞくっち』
Prix Ars Electronica 2024 Interactive Art + 部門 Honorary Mention

IMATANI（今谷真太郎（2023年卒業）） × NS
SICF25 EXHIBITION部門 山城大督賞

真鍋大度（2002年卒業）
2024年（第34回）福岡アジア文化賞 大賞

東加奈子、厚木麻耶（2021年卒業）（株式会社電通所属）
Young Lions Competitions 2024 日本予選 PR部門 ゴールド（ヤングカンヌ日本代表選出）
Young Lions Competitions 2024 日本予選 メディア部門 シルバー

「逋伝公社」（浅井睦（博士前期課程2年））
第二期アーティストインレジデンス 採択

新垣隆海（アーティスト名：JACKSON kaki）（2024年卒業）
映像作家100人2024 選出

綿貫岳海（2018年卒業）
映像作家100人2024 選出

CCO、Creative Director、Planner：川寄鋼平（2004年卒業）
地球料理 Earth Cuisine「PROUD LIBERICA COFFEE」
2024 Clio Awards Partnerships & Collaborations部門 SILVER

門田健嗣（2024年卒業）
『風景を採取する自転車建築』
JIDF学生文化デザイン賞2024 入選

安野太郎（2004年卒業）
サウンドパフォーマンス・プラットフォーム特別公演 安野太郎ゾンビ音楽
『大霊廟IV—音楽崩壊—』
第23回佐治敬三賞

監督・撮影・編集：高嶋浩（2006年卒業）
『阿寒湖見聞録』
第6回 日本国際観光映像祭 ART&FACTORY Japan部門 Grand Prix

おおしまたくろう（2017年卒業）
『滑琴狂走曲 in 秋田!（カッキンラブソディー・イン・アキタ）』
やまなしメディア芸術アワード2023-24 Y-SILVER（優秀賞）

兒島朋笑（博士前期課程1年）
『be noisy -Ver. 2019-2022』
Web Audio Conference'24 入選

竹澤風太（博士前期課程2年）
制作協力：椋木新（2023年卒業）、平本大輔（博士前期課程2年）、塩澄祥大（博士前期課程2年）、成瀬陽太（博士前期課程1年）
『Informalized Void』
第29回 学生CGコンテスト アート＆ニューメディア部門 最優秀賞

大越円香（2023年卒業）
『invisible view』
第29回 学生CGコンテスト アート＆ニューメディア部門 入選

今谷真太郎（2023年卒業）
『ARコミック@[壁]』
第29回 学生CGコンテスト ゲーム＆インタラクション部門 入選

森田明日香（博士前期課程2年）
『Observing Variation: in Sliced Loin Hams / 差異の観測: スライスロスハム群』
やまなしメディア芸術アワード2023-24 入選作品

楊慶新（博士前期課程2年）
『code play/码上演绎』
やまなしメディア芸術アワード2023-24 入選作品

大久保雅基（2016年卒業）
音楽劇「声のゆえ」
やまなしメディア芸術アワード2023-24 入選作品

Scott Allen（2016年卒業）
『Unreal Pareidolia -shadows-』
やまなしメディア芸術アワード2023-24 入選作品

新津亜土華（2000年卒業）
『Mirror#Narcisse』
やまなしメディア芸術アワード2023-24 入選作品

—2023

今谷真太郎（2023年卒業）
『ARコミック「壁」』
日テレマジナリウムアワード XR部門 SILVER MEDAL

竹澤風太（博士前期課程2年）
制作協力：椋木新（2023年卒業）、平本大輔（博士前期課程2年）、塩澄祥大（博士前期課程2年）、成瀬陽太（博士前期課程1年）
『Informalized Void』
2023 アジアデジタルアート大賞展 FUKUOKA 一般カテゴリ インタラクティブアート部門 入賞
日テレマジナリウムアワード XR部門 BRONZE MEDAL

JACKSON kaki（新垣隆海・博士前期課程2年）
『Avater Performance “桃太郎”』
日テレマジナリウムアワード メタバース部門 審査員奨励賞

JACKSON kaki（新垣隆海・博士前期課程2年）
『VR Audio Visual Performance “存在している”』
日テレマジナリウムアワード メタバース部門 審査員奨励賞

山岸奏大（博士前期課程2年）
『Grasp(er)』
ISCA2023（INTERNATIONAL STUDENTS CREATIVE AWARD 2023） デジタルコンテンツ部門 優秀作
2023 アジアデジタルアート大賞展 FUKUOKA 学生カテゴリ インタラクティブアート部門 大賞/総務大臣賞

塩澄祥大（博士前期課程2年）
『Border』
ISCA2023（INTERNATIONAL STUDENTS CREATIVE AWARD 2023） 国内映像コンテンツ部門 佳作

成瀬陽太（博士前期課程1年）
『Interactive Afflatus』
ISCA2023（INTERNATIONAL STUDENTS CREATIVE AWARD 2023） デジタルコンテンツ部門 入選作

兒島 朋笑（博士前期課程1年）
『I was there then』
2023 19th WOCMAT (Workshop on Computer Music and Audio Technology) 入選
19th 2023 WOCMAT Phil Winsor International Youth Computer Music Competition Award ノミネート

門田健嗣（博士前期課程2年）
『風景を採取する自転車建築』
2023年度 第39回 JIA東海支部設計競技 金賞受賞

浅尾楽（博士前期課程2年）
『ふがない空の街』
神ゲー創造主エボリューション2023 ファイナリスト選出

志村翔太（博士前期課程1年）
『異邦人』
2023 アジアデジタルアート大賞展 FUKUOKA 学生カテゴリ 動画部門 優秀賞

阿部和樹（2022年卒業）
『アイマノカタチ』
第二回AIアートグランプリ 優秀賞
2023 アジアデジタルアート大賞展 FUKUOKA 一般カテゴリ 静止画部門 優秀賞

金箱淳一（2008年卒業・神戸芸術工科大学准教授）、平島有紗、首藤圭介、永吉宏行、山村美紀、内山博子
『Blooming Boundary』
2023 アジアデジタルアート大賞展 FUKUOKA 一般カテゴリ インタラクティブアート部門 入賞

菅野創（2009年卒業）、加藤明洋（2018年卒業）、綿貫岳海（2018年卒業）
『かぞくっち』
CREATIVE HACK AWARD 2023 ファイナリスト選出

川又龍人（2022年卒業）
TOKYO STARTUP GATEWAY 2023 コンテスト部門 セミファイナリスト選出

伏田昌弘（2020年卒業）
『Avatar Jockey』
NAGOYA NEW クリエイター映像AWARD VR部門 準グランプリ

川田祐太郎（2023年卒業）
『Formation and Perceptualization of “Kairosymbiosis”：Human-Paramecium Interplay』
令和5年度文化庁メディア芸術クリエイター育成支援事業 国内クリエイター創作支援プログラム採択

堂園翔矢（2014年卒業）
『ORBITAL ART – 芸術と科学の領域横断コラボレーションによる軌道芸術作品の制作』
令和5年度文化庁メディア芸術クリエイター育成支援事業 国内クリエイター創作支援プログラム採択

長野櫻子（博士前期課程2年）
『それぞれの日々』
令和5年度文化庁メディア芸術クリエイター育成支援事業 国内クリエイター創作支援プログラム採択

小林玲衣奈（2023年卒業）
『あわいのために』
令和5年度文化庁メディア芸術クリエイター育成支援事業 国内クリエイター発表支援プログラム採択

塩澄祥大（博士前期課程2年）
『BMXグラフィティ』
令和5年度文化庁メディア芸術クリエイター育成支援事業 国内クリエイター発表支援プログラム採択

柴田一秀（サイバートーン）（2021年卒業）
『サイバートーン』
令和5年度文化庁メディア芸術クリエイター育成支援事業 国内クリエイター発表支援プログラム採択

—2023

誉田千尋（2023年卒業）

『ナハトムジーク』

イメージフォーラム・フェスティバル2023 東アジア・エキスペリメンタル・コンペティション ノミネート

ALIMO（2008年卒業）

『並んだLAND』

イメージフォーラム・フェスティバル2023 東アジア・エキスペリメンタル・コンペティション ノミネート

監督：川添彩、音響デザイン：林暢彦（2023年卒業）

『とおぼえ』

イメージフォーラム・フェスティバル2023 東アジア・エキスペリメンタル・コンペティション ノミネート

川又龍人（2022年卒業）、大谷芳之（2021年卒業）

『Cybor Ichiba』

100BANCH Garage Program採択

すずえり（鈴木英倫子）（2007年卒業）

「移動について」

「OPEN SITE 8」2023年度実施企画 展示部門 採択

佐藤優太郎（2020年卒業）、今井健人、小鷹研理（2007年卒業）

『Buddha's Ear Illusion』

Best Illusion of The Year Contest 2023 トップ10

今井健人、茅野遥佳、小鷹研理（2007年卒業）

『XRAYHEAD』

Best Illusion of The Year Contest 2023 トップ10

大越円香（2023年卒業）

「Surface drawing」

anonymous art project competition 特別賞

河井健（博士前期課程1年）

『対話の不可能性（wall_01）』

IAG AWARDS 2023 入選

監督：川添彩、音響デザイン：林暢彦（2023年卒業）

『とおぼえ』（英題：Howling）

IndieLisboa 2023 Best Fiction Award

志村翔太（博士前期課程1年）

『新しい世界』

六本木アートナイト2023 オープンコール・プロジェクト採択

森田明日香（博士前期課程1年）

『Lag』

第28回学生CGコンテスト アート部門 Campus Genius Award

BRONZE 滝戸ドリタ 評価員賞

阿部和樹（2022年卒業）

『Latent Space Explorer』

第28回学生CGコンテスト アート部門 Partner Award CCBT賞

第一回AIアートグランプリ 佳作入選

守下誠（2022年卒業）

『ARama!』

第28回学生CGコンテスト エンターテインメント部門 Campus Genius

Award BRONZE 柳太漢 評価員賞

Behicle2（河合将也（博士前期課程1年）、塩澄祥大（博士前期課程1年））

『AKS』

第28回学生CGコンテスト エンターテインメント部門 Partner Award アクセンチュア ソング賞

今谷真太郎（博士前期課程2年）

『レンゲ女王様』

月刊コミックフラッパー コミックフラッパー月例賞（2023年1月）

川田 祐太郎（博士前期課程2年）

『dægmael paramekairós』

やまなしメディア芸術アワード2022 Y-SILVER（優秀賞）

阿部和樹（2022年卒業）

『ParametriX』

やまなしメディア芸術アワード2022 入選

大久保雅基（2016年卒業）

『あなたが来たときに私はここにいた』

やまなしメディア芸術アワード2022 入選

加藤明洋（2018年卒業）

『WAN NYAN WARS』

やまなしメディア芸術アワード2022 入選

具志堅裕介（2017年卒業）

『WINDOW』

やまなしメディア芸術アワード2022 入選

鈴木英倫子（2007年卒業）

『女誠扇綺譚 兵将官祠』

やまなしメディア芸術アワード2022 入選

チームSewing（竹澤風太（博士前期課程1年）、石塚隆（博士前期課程1年）、森田明日香（博士前期課程1年）、椋木新（社会人短期在学コース））

『Sewing Feelings』

やまなしメディア芸術アワード2022 入選

元橋洗佐、鈴木剛（2007年卒業）、小鷹研理（2007年卒業）

『キュービック体操』

やまなしメディア芸術アワード2022 入選

—2022

今谷真太郎（博士前期課程2年）
『ARコミック「壁」』
CREATIVE HACK AWARD 2022 Wacom賞
XR CREATIVE AWARD 2022 大賞

Behicle2（河合将也（博士前期課程1年）、塩澄祥大（博士前期課程1年））
『AKS』
2022 アジアデジタルアート大賞展 FUKUOKA 学生カテゴリ インタラクティブアート部門 優秀賞
ISCA（INTERNATIONAL STUDENTS CREATIVE AWARD）2022 デジタルコンテンツ部門 ノミネート

竹澤風太（博士前期課程1年）、石塚隆（博士前期課程1年）、森田明日香（博士前期課程1年）、棕木新（社会人短期在学コース）
『Sewing Feelings』
2022 アジアデジタルアート大賞展 FUKUOKA 学生カテゴリ インタラクティブアート部門 優秀賞

塩澄祥大（博士前期課程1年）
『構図と塗りの習作(猫)』
2022 アジアデジタルアート大賞展 FUKUOKA 学生カテゴリ 静止画部門 優秀賞

金箱淳一（2008年卒業・神戸芸術工科大学准教授）、渡部直也、山村美紀、中村開、首藤圭介、内山博子
『Sympathetic Wear』
2022 アジアデジタルアート大賞展 FUKUOKA 一般カテゴリ インタラクティブアート部門 優秀賞/福岡県知事賞

今井健人、茅野遥佳、小鷹研理（2007年卒業）
『XRAYHEAD』
2022 アジアデジタルアート大賞展 FUKUOKA 一般カテゴリ インタラクティブアート部門 入賞

回転アニメーションWebアプリ「マジカループ」
制作統括：東京都写真美術館 教育普及プログラム
監修：井上仁行（パンタグラフ） 制作：飯塚修平、江口拓人（artrecorder）、村上寛光（卒業生・株式会社フリッカ）、石田哲朗（東京都写真美術館）、武内厚子（東京都写真美術館）
2022 アジアデジタルアート大賞展 FUKUOKA 一般カテゴリ エンターテインメント（産業応用）部門 優秀賞

川又龍人（2022年卒業）
『inori』
第33回ザッカデザイン画コンペティション 大賞
第33回ザッカデザイン画コンペティション 査員賞（南馬越一義選考）

若見ありさ（2000年卒業）
『ガラッパどんと暮らす村』
映文連アワード2022 文部科学大臣賞

MATHRAX〔久世祥三＋坂本茉莉子（2008年卒業）〕
Artists in FAS 2022 入選アーティスト

今谷真太郎（博士前期課程2年）
『歩いて読み進めるARコミック』
異能vation 2022年度「ジェネレーションアワード」部門 株式会社ゼロワンプースター 企業特別賞

門田健嗣（博士前期課程1年）
『Nature/Posture』
2022年度グッドデザイン・ニューホープ賞 入選

森田明日香（博士前期課程1年）
『Lag』
ISCA（INTERNATIONAL STUDENTS CREATIVE AWARD）2022 デジタルコンテンツ部門 ノミネート

長野櫻子（博士前期課程2年）
『あなたが誰で、どんなに孤独だろうとも』
第28回学生CGコンテスト エンターテインメント部門 ノミネート

西尾秋乃（博士前期課程1年）
『戯れ子ばこ』
2022 Golden Pin Concept Design Award Design Mark Winners

Behicle2（河合将也（博士前期課程1年）、塩澄祥大（博士前期課程1年））
「改造自転車でもビリティマネジメント」
岐阜県技術活用型スタートアップ掘り起こし・加速化支援事業プログラム採択

楊慶新（博士前期課程1年）
「私」から見た豊田～デジタル空間上で地域の魅力を再発見～
2022年とよたデカスプロジェクト企画採択

浅尾楽（博士前期課程1年）、塩澄祥大（博士前期課程1年）
「レーザー加工機で何が出来る？！身の回りをちょっと便利にするものを作ろう！」
令和4年度大垣市市民提案事業・学生提案事業採択

永井歩（2022年卒業）
『Virtual Hallucinogen』
CREATIVE HACK AWARD 2022 ファイナリスト選出

デザイナー：佐野和哉（2017年卒業）
番組コンテンツ [ローカルフレンズ滞在記]
2022年度グッドデザイン賞 グッドデザイン・ベスト100

プロデューサー：宝珠山徹（2004年卒業）
ディレクター：小林茂（教授）
地域文化振興のためのコンテスト [「KDCC 北九州デジタルクリエイターコンテスト」の包摂的キュラトリアル・デザイン]
2022年度グッドデザイン賞

デザイナー：山辺真幸（2003年卒業）
8Kデータビジュアライゼーション [新型コロナウイルスの進化地図]
2022年度グッドデザイン賞

—2022

森田明日香（博士前期課程1年）

『Lag』

ART AWARD TOKYO MARUNOUCHI 2022 選出

菅野創（2009年卒業）、加藤明洋（2018年卒業）、綿貫岳海（2018年卒業）

『かぞくっち』

The European Media Art Platform (EMAP) 採択

ヨフ（柳川智之（2013年卒業）、大原崇嘉、古澤龍）

『Paraillusion』

メディア芸術クリエイター育成支援事業 令和4年度 国内クリエイター創作支援プログラム採択

山辺真幸（慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科）（2003年卒業）・中川草（東海大学医学部基礎医学系分子生命科学）

『新型コロナウイルスゲノム系統樹の3次元可視化』

第33期可視化情報学会賞 技術賞

木村佳（2021年卒業）

「あなたがNEXTアーティスト！〜ウィズコロナ 若手応援プロジェクト〜」採択

林暢彦（博士前期課程2年）

『Harness』

Contemporary Computer Music Concert 2022 ACSM116賞 / MOTUS賞

企画・制作メンバー：井原正裕、岩谷成晃、宇佐美毅、遠藤舜、金スルギ（2014年卒業）、須藤史貴、田中喜作、藤岡定、村上ヒロシナンテ、もとはる、吉田めぐみ（2013年卒業）（以上 anno lab）、船津文弥、吉田ひかる、渡辺圭介

建築デザイン：西岡美紀（Kocochi Architect）、小島佳子（楓空間設計）

音響デザイン：KAMRA（中村優一 / invisi, inc）

企画・検証協力：的場寛

モータ制御システム制作：堀尾寛太（Ponoor Experiments inc.）、新美太基

『太陽と月の部屋』

第25回文化庁メディア芸術祭 アート部門 大賞

石川将也／杉原寛／中路景暁（2019年卒業）／キャンベル・アルジェンジオ／武井祥平

『四角が行く』

第25回文化庁メディア芸術祭 アート部門 優秀賞

YAKUSHIMA TREASURE ANOTHER LIVE 制作チーム

テクニカルディレクター：堀宏行（2008年卒業）

『YAKUSHIMA TREASURE ANOTHER LIVE from YAKUSHIMA』

第25回文化庁メディア芸術祭 エンターテインメント部門 優秀賞

平瀬ミキ（2019年卒業）

『三千年後の投写術』

やまなしメディア芸術アワード Y-GOLD（最優秀賞）

第25回文化庁メディア芸術祭 アート部門 新人賞

中路景暁（2019年卒業）

『Roll Role』

第25回文化庁メディア芸術祭 アート部門 審査委員会推薦作品

養毛雄吾（2021年卒業）

『time in space, space in time』

やまなしメディア芸術アワード 入選

第27回学生CGコンテスト エンターテインメント部門 橋本善久審査員賞

第25回文化庁メディア芸術祭 アート部門 審査委員会推薦作品

『傀儡神楽』制作チーム（代表：池上 高志）

Alter3 Performance control interface development and operation:johnsmith（2015年卒）

『傀儡神楽 Alter the Android KAGURA』

第25回文化庁メディア芸術祭 アート部門 審査委員会推薦作品

全体統括・企画・クリエイティブディレクション：川寄鋼平（2004年卒業）

地球料理 -Earth Cuisine- #2「Bamboo Sweets」

2021 One Asia Creative Awards

[Green Award] Special Awards, [Silver] Design: Design for Good / Green, [Merit] Design: Product Design

天野真（博士前期課程2年）

『VOICE | NOISE』

第27回学生CGコンテスト アート部門 優秀賞

Scott Allen（2016年卒業）

（共同制作者：高石圭人、石井飛鳥、渋谷和史、リボクカン、小林篤矢、徳井直生）

『Compressed ideograph -visualized-』

やまなしメディア芸術アワード Y-SILVER（優秀賞）

Benda putar（森田了（2020年卒業））

サウンドパフォーマンス・プラットフォーム2022 公募アーティスト選出

地域貢献活動

・地域貢献活動の一環として、企業を対象とした岐阜イノベーション工房を行っています。

岐阜イノベーション工房

岐阜イノベーション工房2023

岐阜イノベーション工房は、参加者が、イノベーション創出に有効であるとされる手法を主催者から学び、参加者の所属組織などにおいて実践し、実践からの学びを共有することを通じて、イノベーション活動に積極的に取り組む風土を岐阜県内に醸成することを目的として情報科学芸術大学院大学が実施しているプログラムです。

2018年からの5年間で25社が参加し、本事業への参加をきっかけにイノベーションがいくつも生まれました。2023年は岐阜イノベーション工房意見交換会、成果報告会を開催し、3社の成果報告を行いました。



(参加企業) 3社

・株式会社Clap
(2019年度に株式会社Nextdoorとして参加)

・カンダまちおこし株式会社
(2021年度に株式会社十六総合研究所として参加)

・太平洋工業株式会社
(2020年度参加)

イノベーション工房2023 成果報告会

プロダクト・イノベーション

プロダクト・イノベーションとは、新しいプロダクト（製品・サービス）であって、その企業の以前のプロダクトとは大きく異なり、かつ市場に導入されているものを意味します。以下の企業の取り組みが報告されました。

株式会社Clap：ご褒美おつまみ定期便nohaco

おつまみ専門店が監修したAIが、質問の答えから分析したあなた好みの本格おつまみを毎月お届けする定期便サービスです。送られてきたおつまみを評価すると、どんどんあなた好みのセレクトになっていきます。(2019年度参加者・2022年1月リリース)

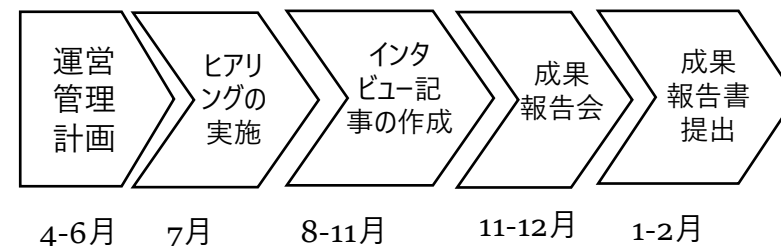
カンダまちおこし株式会社：CoLoRs

企業版ふるさと納税制度を活用して企業と地方の関係性を構築することにより、企業と地方、双方にとっての持続的な発展と課題解決を支援するサービスです。自治体職員対象の勉強会などにより、従来は難しかったマッチングを効果的に促進します。(2021年度参加者・2023年2月リリース)

2024年2月22日(木)10:30 - 12:00
IAMAS 3F ソピアホール、オンライン
※今までの参加企業からも参加 参加者50名

岐阜イノベーション工房2024

岐阜イノベーション工房2024スケジュール



IAMAS イベント

- 毎年、修了研究発表会・プロジェクト研究発表会を開催し、成果の発表を行っています。
- 隔年で岐阜おおがきビエンナーレおよびOgaki Mini Maker Faireを開催し、新しいアートやものづくりに関する発信を行っています。

IAMAS2024 第22期生修了研究発表会 [修了展] Graduation Research Exhibition

IAMAS2024は第22期生による修了研究発表会です。本展は、「swingby」をテーマとして開催しました。トークイベントも例年より多く企画され、最終日には退任する三輪眞弘教授の記念トークも行われました。三輪門下生も全国から駆けつけ、最後は花束贈呈で締めくくられました。

2024年2月22日（木） - 2024年2月25日（日） 10:00-18:00（初日のみ13:00-）
ソフトピアジャパンセンタービル/ワークショップ24
URL: <https://www.iamas.ac.jp/exhibit24/>
修了展示：15件
トークイベント：13件
来場者数：約550名

-Program

2023.2.22(木)

・オープニングセレモニー by IAMASガムラン部

・IAMASの「できるまで」(1日目)

2023.2.23(金・祝)

・IAMASの「できるまで」(2日目)

・ビデオゲームからインタラクティブ表現を再考する

・身体のリパリオ、あるいはサイド・バイ・サイド

2023.2.24(土)

・「風の音、風の光」——ティム・インゴルドのサウンドスケープ批判を起点として——

・プロジェクト研究に関する、教員による報告会

・「壁と卵」を再考する

・NxPC.Live vol.67 FULL-SWING

2023.2.25(日)

・クリティカルサイクリング 早朝耐寒ライド
2024 Winter

・時間論でみるIAMAS2024

・リサーチ・スルー・デザイン (RtD) から研究・表現を再考する

・行為の芸術：社会的実践としての演劇とパフォーマンス

・み感
わ謝
退任記念トーク! (@卒展)



IAMAS OPEN HOUSE 2024

開催概要：

メディア表現研究科の教員と在学生在が多様な研究成果を発表するイベントです。本イベントは学校紹介や進学相談の機会も担っています。科学的知性と芸術的感性の融合を目指した理論と応用を実践する研究科の取り組みを来場者と共有することを目的として、毎年開催しています。

本年度の来場者数は7/20(土) 134人、7/21(日) 163人の二日間で計297名となりました。学校紹介が5件、個人・有志企画が25件、プロジェクト研究が8件の計38企画が展開されました。本イベントは、ソフビアジアセンタービルならびにワークショップ24内にある学内施設のほとんど全ての場所を使用する形で実施されました。

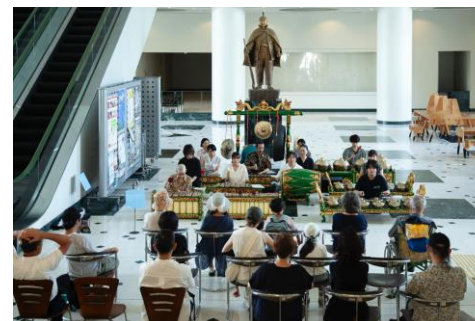
開催日時：2024年7月20日(土) -21日(日) 10:00 - 17:00

実施形態：対面開催 センタービル、WS24各会場

URL：<https://www.iamas.ac.jp/openhouse/>

開催企画一覧：

進学相談会 (IAMAS OPEN HOUSE 2023実行委員会) / 進学説明会 (IAMAS OPEN HOUSE 2023実行委員会) / 学内ツアー (IAMAS OPEN HOUSE 2022実行委員会) / Kioskを使用したポスター展示 (産業文化研究センター [RCIC]) / 「In the spotlight ままならない間の中で」山口 結子 / 「playing the あるまでいふゆ〜ざ〜」菊田 佳恵 / 「14.5°C」松井 美緒 / 「Phonetic Tapestry」佐野風史 + 早田仁知 / 「残波」松井 美緒 / 「in a slumber - 肌のタイヤ」對中 優 / 「ひつじに溺れる時間」JUNG JIEYUN / 「息をしている (Breathing with you.)」カワイタケシ / 「バグアートについてのスタディ」徳保 晴人 / 「Sight/Insight」成瀬 陽太 / 「Is there そこにいる」芹澤 碧 / 「産学官連携による持続可能な挑戦を可能にする伝統的工芸品産業の環境構築の取り組みの紹介」蛭田 直 / 「恥を知る減び方について『O』」So_ / 「please tell me」兒島 朋笑 / 「アバターたちの空間」ねこぞ / 「Superpotision machine / イマジナリーテクスチャのためのモーダル分解装置」浅井 睦 / 高次素材設計技術研究舎 -Melt- / 「レイヤード・カラーズ」中村 駿 / 「メディアとわたしたち <メタ認知と相互理解によるメディア・リテラシー教育>」橋本 正隆 / 「気晴らしのパターン」小林 史佳 / 「合掌入力プロトタイプ」CIM-G / 「『毒』の重要性研究 2024: 毒プロ・アップデート」大久保美紀 / 「博士後期課程の学生がいま考えていること」いま考えていること実行委員会 / 「NxPC.Live vol.70 交通の要所、爆音にて」NxPC.Lab / 「IAMASONIC 2024」IAMASONIC 2024 / 「IAMASガムラン部演奏会 in OPEN HOUSE 2024」IAMASガムラン部 / 「IAMAS 顔なしフォン問答」The Art of Listening / 「EEE-Exhibition 2024」体験拡張表現プロジェクト / 「クマムシによる実験とフィールドワーク」Extreme Biologies / 「Collaborative Design Research Projectの紹介」Collaborative Design Research Project / 「福祉の技術プロジェクトの紹介」福祉の技術プロジェクト / 「動く・動かす・動きを見る」運動体設計 / 「IAMAS ARTIST FILE #10 技術から思考するエコロジー」テクノロジーの解釈学 / 「運動体設計 + クリティカル・サイクリング早朝盛夏ライド2024」運動体設計 + クリティカル・サイクリング



Ogaki Mini Maker Faire

Ogaki Mini Maker Faire 2024

Maker Faireは、「Maker」（メイカー）と呼ばれる、ものづくりの愛好家たちが全国から集い、電子工作やロボット、クラフト、電子楽器、サイエンス工作などに関する展示や発表を行い、相互に交流することで、ものづくりの楽しさを共有するイベント。8回目となる今回も、ソフトピアジャパン会場に並んだユニークな展示作品を、実際に見て、触れて、体験していただくことを予定しています。また、今回clusterによる〈メタバース〉会場を使用したプレイベントを事前に設け、出展者によるプレゼンテーションや新たな形での交流会を行います。

開催日：2024年11月23日(土)ー 11月24日(日)
 開催場所：ソフトピアジャパン・センタービル
 主催：Ogaki Mini Maker Faire 2024実行委員会
 大垣商工会議所 / ぎふITものづくり協議会 / 一般社団法人岐阜県情報産業協会 / 一般社団法人岐阜県工業会 / 公益財団法人ソフトピアジャパン / 公益財団法人岐阜県産業経済振興センター / 岐阜県金属工業団地協同組合 / 伊藤忠アーバンコミュニティ・グループ / 岐阜工業高等専門学校 / 岐阜県 / 大垣市 / 情報科学芸術大学院大学 [IAMAS]
 共催：(株)オライリー・ジャパン
 総合ディレクター：小林茂教授
 出展者：115組
 (東北3組、関東33組、中部60組(岐阜県12組)、近畿18組・中国1組)
 プレゼンテーション：12組
 来場者数(予定)：約3000人(過去実績から換算)

【関連企画】

ー プレイベント 2024年11月16日(土)の15時

- clusterでのプレゼンテーション発表会と出展者交流会
- cluster: <https://cluster.mu/>

ー connect2 (NxPC.Lab)

- 成果展示 2024年11月23日(土)ー11月24日(日) 13:00-16:00 (予定)
ソフトピアジャパン・セミナーホール(予定)



IAMAS ARTIST FILE #10

〈方法主義芸術〉-規則・解釈・(反) 身体

情報科学芸術大学院大学[IAMAS]と岐阜県美術館との連携事業「IAMAS ARTISTFILE」は2013年に始まり、本展で第9回目となる。今回は、美術家中ザワヒデキが提唱し、IAMAS教員2名（三輪眞弘・松井茂）がメンバーとして参加した「方法主義」の奇跡を辿り、その活動を再考した。ゼロ年代初頭の芸術運動「方法主義」は、同時代芸術を批判し、原理や規則による絵画・詩・音楽を発表した。メンバーを入れ替えて3名で活動した「方法主義」にとって、中ザワ・足立・松井・三輪の4名による回顧展は初めての試みとなった。

岐阜県美術館 [展示室2]

2023.10.11 (Wed) - 12.24 (Sun)

10:00～18:00 [入場は17:30まで]

主催：岐阜県美術館、情報科学芸術大学院大学 [IAMAS]

協力：IAMAS タイムベースドメディア・プロジェクト

助成：公益財団法人花王芸術・科学財団

企画：

岐阜県美術館（西山恒彦）

情報科学芸術大学院大学 [IAMAS]（大久保美紀）

観覧者数データ：

10月11日～12月24日（65日間）

観覧者合計 3799人

関連プログラム

三輪眞弘 作品の再演コンサート

12月9日（土）14:00～16:00

会場：岐阜県美術館 多目的ホール

出演：福島麻衣（ハープ）、東野珠実（箏篋）、
三輪眞弘（作曲者）、岡田暁生（コメンテータ）

方法作品の再演

12月24日(日) 15:00～17:00

会場：岐阜県美術館 多目的ホール 講堂

出演：IAMASタイムベースドメディア・プロジェクト、
中ザワヒデキ、足立智美、三輪眞弘

連動企画

岐阜おおがきエンナーレ2023 〈方法／Method〉

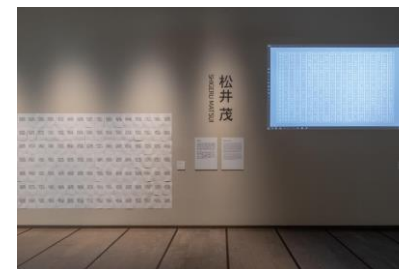
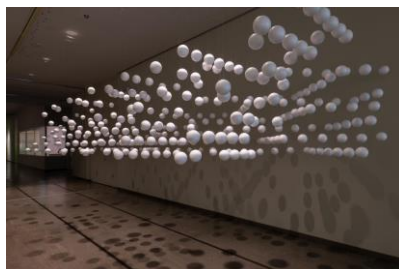
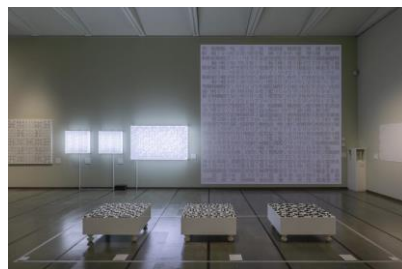
12月7日（木）～12月10日（日）

会場：情報科学芸術大学院大学 [IAMAS]

主催：IAMAS

内容：「方法主義」をテーマにシンポジウムや資料展示などを開催。

岐阜県美術館 展示室2 展示会の様子



岐阜おおがきビエンナーレ2023 「方法／Method」

岐阜おおがきビエンナーレ2023は、同時期に岐阜県美術館で開催された展覧会「〈方法主義芸術〉—規則・解釈・（反）身体」と連動する企画として、四日間にわたって開催された。美術家の中ザワヒデキが提唱し、IAMAS教員2名（三輪眞弘・松井茂）がメンバーとして参加した「方法」について、その活動の概要を論じる中ザワの基調講演で幕が開けた。「方法」への四つのアプローチとして、諸芸術の連携、真理、瞑想、作品のリアライゼーションをめぐり、シンポジウムを行った。方法主義者による作品・資料展示も同時開催された。

ソフトピアジャパン・センタービル
2023.12.7 (Thu) - 12.10 (Sun)

主催：情報科学芸術大学院大学 [IAMAS] 岐阜県 大垣市
協力：IAMAS タイムベースドメディア・プロジェクト
助成：公益財団法人花王芸術・科学財団
総合ディレクター：大久保美紀

（入場者数）

約1,170人 2023(R5)年 12月/7, 8, 10日の3日間
約80人（実会場）／オンライン視聴（約1,020人）
2023(R5)年 12月9日 再演コンサート
約70人（岐阜県美術館・多目的ホール）

12月7日（木）
13:30 - 14:00 ガムラン演奏会
14:15 - 15:00
中ザワヒデキによる基調講演
「方法絵画・方法詩・方法音楽～方法主義はポストメディアムではない～」
15:00 - 17:00
シンポジウム「方法」
登壇者 | 中ザワヒデキ、三輪眞弘、大久保美紀（モデレータ）

12月8日（金）
14:00 - 17:00
鼎談 岡田暁生×三輪眞弘×吉岡洋「真理と方法、再び」
登壇者 | 岡田暁生、三輪眞弘、吉岡洋、大久保美紀（モデレータ）

12月10日
13:00 - 15:00
篠原資明 × 松井茂 対談
「方法と瞑想」
登壇者 | 篠原資明、松井茂
15:00 - 16:45
方法マシン同窓会「来れ、集え、マシンとなれ～！」
登壇者 | 三輪眞弘、池田拓実、さかいれいしう、園羽山園、安野太郎、大久保美紀（モデレータ）



「方法／Method」 シンポジウムの様子

作品・資料展示の様子

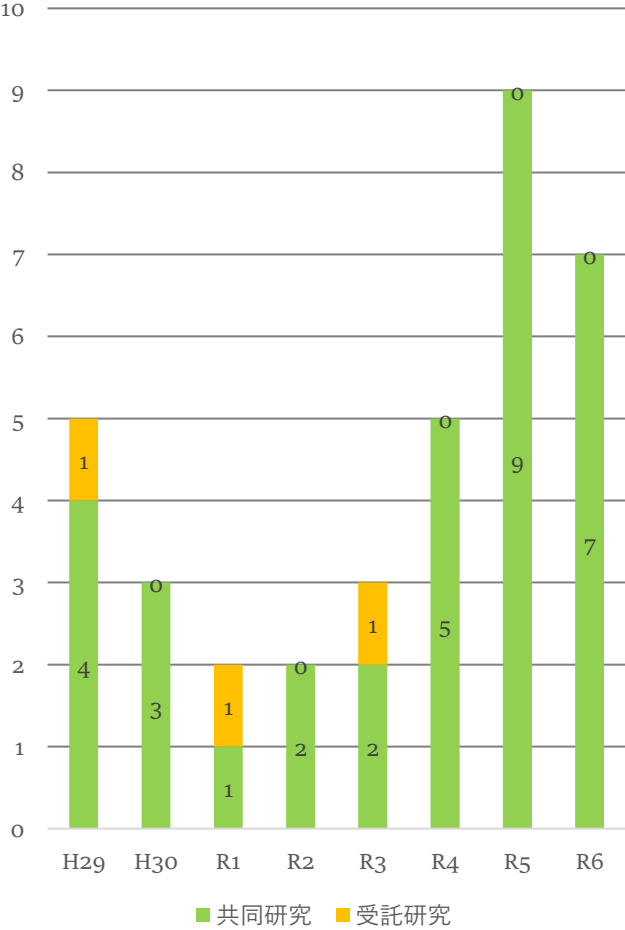
共同研究
受託研究

- ※ 共同研究 : 必ずしも研究資金の授受を問わず、人材交流や技術・施設の共用による研究であり、契約を締結したもの
- ※ 受託研究 : 官公庁、自治体や民間企業などから受託して行う研究

共同・受託研究

2024年度 (令和 6年度)	- 東京コンピュータサービス㈱《平林真実教授》 テーマ:MR空間において共有された身体とアバターを使った即興的な音楽創造システムの研究開発 テーマ:MRを用いた空間設計におけるユーザーインターフェース
	- 東京コンピュータサービス㈱ (赤羽亨教授) テーマ: デジタルツイン環境を前提とした、MR/AR/VRを用いた表現システムの開発とその展開可能性についての研究
	- (公財) 岐阜かかみがはら航空宇宙博物館(赤羽亨教授) テーマ: 学習資源を活用した学習環境デザインに関する研究 他 2 本
	- 大垣市 (鈴木宣也教授、赤羽亨教授) テーマ: メディア表現を活用した体験型学習のデザイン
2023年度 (令和 5年度)	- 東京コンピュータサービス㈱《平林真実教授》 テーマ:デジタルツイン環境を前提としたMR/AR/VRを用いた表現システムの開発とその展開可能性についての研究
	- 岐阜市 (赤羽亨教授) テーマ: 市民ワークショップを通した屋外用メディアラボの製作プロセスに関する実践的研究
	- (公財) 岐阜かかみがはら航空宇宙博物館(赤羽亨教授) テーマ: 学習資源を活用した学習環境デザインに関する研究 他 2 本
	- 大垣市 (鈴木宣也教授、赤羽亨教授) テーマ: メディア表現を活用した体験型学習のデザイン
	- (株) asyl / (株) FLAME (赤羽亨教授) テーマ: AR音声ガイドに特化したサウンドデザインに関する研究 / AR音声ガイドに関するUI設計に関する研究
	- 三菱鉛筆 (株) (鈴木宣也教授・赤羽亨教授) テーマ: アイデアスケッチを活用したデザインプロセスに関する実践研究
2022年度 (令和 4年度)	-東京コンピュータサービス㈱《平林真実教授》 テーマ:MR/AR/VRを用いた表現システムの開発とその展開の可能性の研究
	- 東京コンピュータサービス(株)(赤羽亨教授) テーマ: デジタルツインを活用した映像インスタレーションの設計
	- (株)オアシスパーク(赤羽亨教授) テーマ: 観光資源を用いたメディア表現の展開における実践的研究
	- (公財)岐阜かかみがはら航空宇宙博物館(赤羽亨教授) テーマ: 学習資源を活用した学習環境デザインに関する研究
	- 大垣市 (平林真実教授) テーマ: メディア表現を活用した体験型学習のデザイン

共同・受託研究件数 2024.09現在



- 2024年度の共同研究活動紹介

大垣市情報企画課との連携実績

メディア表現を活用した体験型学習のデザイン ー「イアマスこどもだいがく2024」の開催ー

大垣市情報企画課と連携し、IAMASの研究や施設を用いた子ども向け講座を開催することを通じて、様々なメディアを用いた体験型学習のデザインを実践的に研究しています。8年目となる今年度は、昨年度に引き続き、IAMASの博士前期課程プロジェクト「Collaborative Design Research Project」の一環として、糸でんわの遊びを通してインターネットの仕組みを体感するワークショップを設計、実施しました。

目的：

このワークショップの目的は大別して2つに分けることができます。1点目は、子どもたちが遊びを通じて「コミュニケーション」や「ネットワーク」を身近なものとして感じ、情報科学や文化芸術に関心をもつきっかけづくりとなる機会を生み出すことです。2点目は、ワークショップの企画、設計、実施をIAMASの学生が主体となって行うことで、創造的な学びの場をいかにすれば提供できるかを、IAMASの学生たちが実践を通じて探求する機会を生み出すことです。

成果：

昨年度参加した子どもたちが今回も参加するなど、リピーターが増えており、「イアマスこどもだいがく」が大垣市民のみならず認知されていることが推察されました。また、ワークショップの運営を行った学生たちは、専門知を子どもたちにわかりやすく伝えることや、子どもたちの創造性を引き出す技法について、実践的に学ぶことができました。

連携先：大垣市情報企画課

連携期間：2024年4月-9月

担当教職員：鈴木宣也、赤羽亨、高森順子

フライヤーデザイン：大山千尋（IAMAS卒業生）



2024年度の共同研究活動紹介

岐阜かかみがはら航空宇宙博物館との連携実績

- (1) 学習資源を活用した学習環境デザインに関する研究
- (2) 博物館での教育普及活動におけるAR教材コンテンツ活用に関する研究

岐阜かかみがはら航空宇宙博物館（愛称：空宙博）では、3年目となる子ども向け講座「ジュニア宇宙博士認定講座」のデザインをIAMASの施設「イノベーション工房」、IAMAS卒業生のデザイナーと連携して展開しました（共同研究1）。

また、子ども向け講座のトータルデザインのひとつとして、月面探索をARを通して体感し、学習・鑑賞するシステムを設計し、ワークショップ内で提供しました（共同研究2）。

目的：

共同研究（1）では、今年度の講座テーマである「月面探索」をモチーフに、小学校高学年から中学生の子どもたちが学び達成感を自覚的に得られるよう、全6回の講座を通し活用していく教材のデザイン、制作を行いました。共同研究（2）では、iPadでアプリを起動すると月面がARで再現され、月面の条件がパラメーターで表示され、それらをもとに総合的に観察し、基地建設に最適な場所を探索するAR教材コンテンツを制作し、子どもたちが主体的に学ぶための機会の提供を目指しました。

成果：

共同研究（1）と（2）を通じて、受講した子どもたちからデザイン性の高い教材に講座への期待感を高める発言や、講座で得た気づきを積極的にシートに記入していく様子などが見受けられました。デザインプロセスの面では、4回の内容に応じたレイアウト変更や、講師や博物館スタッフなど、デザイナー以外の第三者でも編集可能なフォーマットに関して、全6回の講座の中で展開を重ねたことで知見を得ることができました。

連携先：岐阜かかみがはら航空宇宙博物館

連携期間：2024年4月-8月

〔共同研究（1）〕

担当教職員：赤羽亨、高森順子、塩澄祥大

デザイン：大山千尋（IAMAS卒業生）

〔共同研究（2）〕

担当教職員：赤羽亨、高森順子、塩澄祥大

AR開発：伏田昌弘（IAMAS卒業生、東京コンピュータサービス株式会社）



共同研究（1）においてデザインした教材は、①ロゴマーク、②ワークシート、③リフレクションシート、④合格証、⑤修了証。今年度より、スライドなど空宙博側で作成できるものは担当を移行させた。修了証は、月面の凹凸を触って学べるデザインとして、月面をモチーフにしたパズルを作成し、講座終了後も楽しむことができるよう工夫しました。共同研究（2）では、パラメーターと月面の観察を通じて、実際の月面基地建設の諸条件を体感しながら考えることができるよう工夫しました。

出版
広報

- IAMASの研究や各種の活動について認知や関心を高めるための広報活動を行っています。
- 教員による研究や活動を掲載する「紀要」や、プロジェクト成果を纏めた冊子など、IAMASの研究活動の記録も行います。

情報科学芸術大学院大学紀要

Journal of Institute of Advanced Media Arts and Sciences

第15巻 2023年

[特集1]

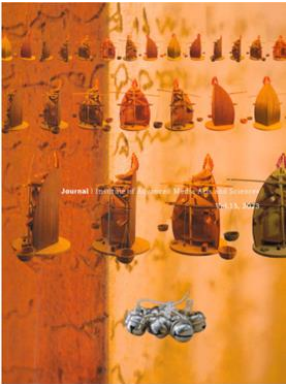
- 三輪眞弘教授退任記念特集
退任祝い（まじない）ツイッター指示書
主要作品表、退任への寄稿文 ほか

[特集2]

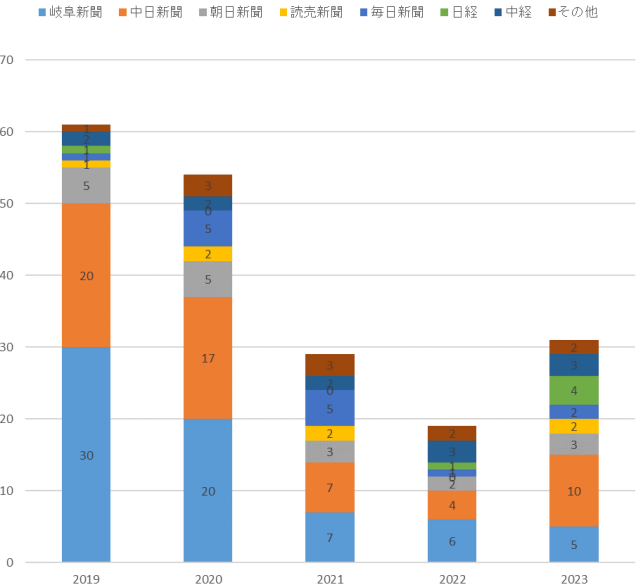
- IAMAS ARTIST FILE #09
＜方法主義芸術＞－規則・解釈・（反）身体
4名の方法主義者の展示
（中ザワビデキ、足立智美、IAMAS教員三輪眞弘、IAMAS教員松井茂）ほか

[特集3]

- 岐阜おおがきピエンナーレ2023「方法／Method」2013.12.08
鼎談「心理と方法、再び」、質疑応答
三輪眞弘における＜死なないための音楽＞：身体を合成する ほか



新聞掲載件数



書籍・雑誌掲載 ※2024.9現在



書籍『1500年続く山の集落から学ぶ』
（さいはて社/2023.9）

金山智子教授編集のIAMASプロジェクト「根尾コ・クリエイション」の記録。
小林孝浩教授、吉田茂樹教授ほか
学生が執筆、デザイン等で参加している。
金山教授は書籍『ケアするラジオ』も執筆。

雑誌「AXIS」
2023年10月号

「特集 次世代デザイナーの群像」で
卒業生 柳川氏が所属する「ヨフ」が
次世代デザイナーとして紹介された。



書籍『配信芸術論』
（アルテスパブリッシング/2023.10）

三輪眞弘教授監修。
松井茂教授、前田教授も参加して
いる。

雑誌「ユリカ」
2023年12月臨時増刊号

坂本龍一さんの特集号に
三輪眞弘教授、松井茂教授などが執筆。
松井茂教授は書籍『坂本龍一のメディア・
パフォーマンス』も執筆している。
卒業生 真鍋氏は
「坂本龍一トリビュート展」を企画、開催した。

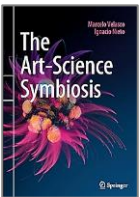


書籍『トーキー・シンコペーション』
（沼野雄司著/音楽之友社/2023.12）

現代音楽評論に卒業生 安野氏と松本氏
が紹介された。安野氏は「ソンビ音楽」で第
23回佐治敬三賞を受賞している。

書籍「The Art-Science Symbiosis」
（Marcelo Velascoほか著/Springer/2024.7）

ホアン・カストロ教授の作品「FORMATA」の
レビューとインタビューが掲載された。

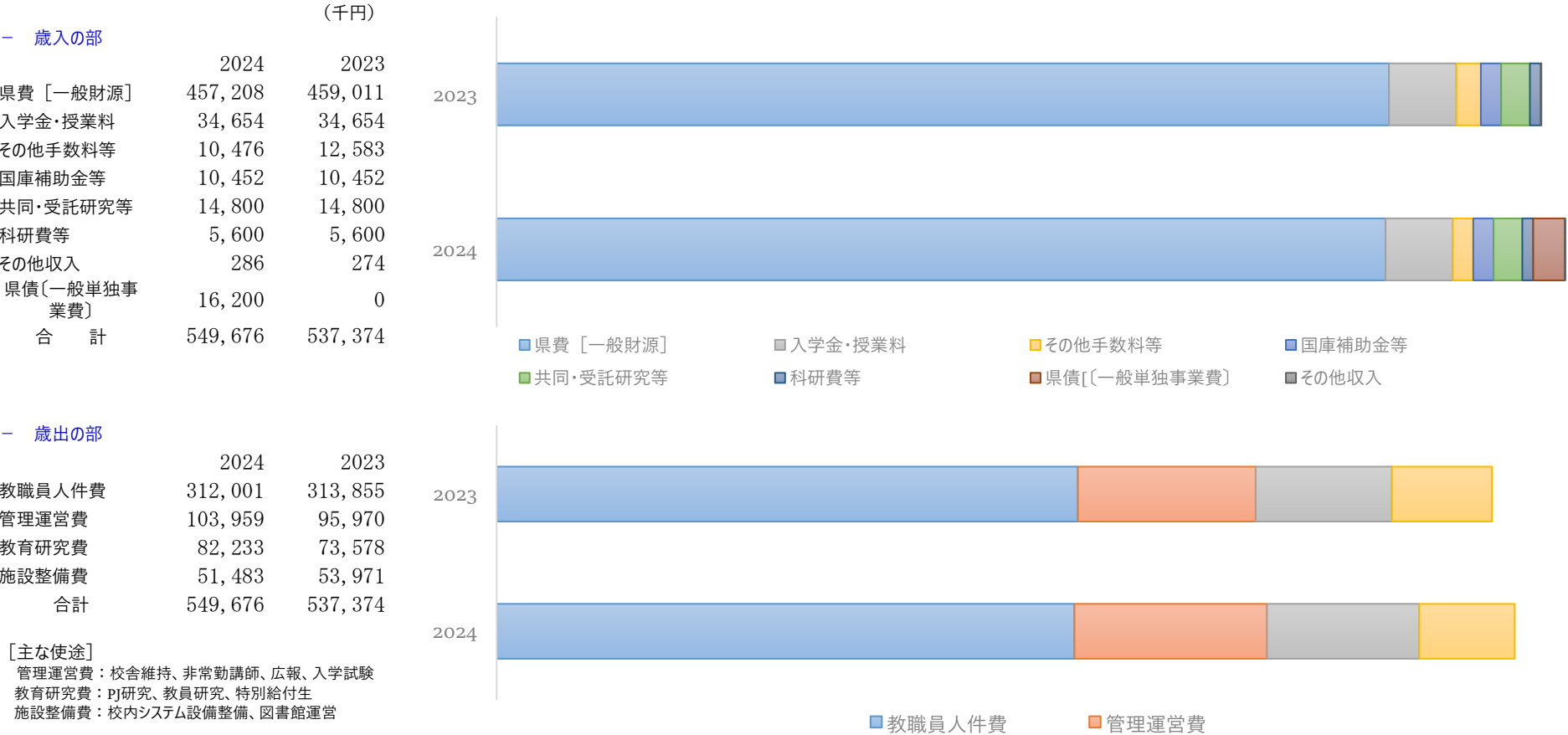


雑誌「日経デザイン」
2024年9月号

パナソニック「100BANCH」の成果発表で
卒業生 川又氏が代表取締役を務める
株式会社PxCellが紹介された。

運 営

- IAMASの運営に関する予算は以下のとおりとなっており、歳入の約8割は岐阜県予算から措置されています。



(単位:千円)

ー 授業料、入学料その他の費用

- 入学前に必要な費用

入学金

県内の者:226,000円

県外の者:338,000円

- 在学時に必要な費用

授業料

年額 535,800円

前期 04月30日までに納付

後期 10月31日までに納付

- 入寮者のみ

寮費 22,800円/月

共益費 35,000円/年 (前納)

- 授業料減免に関する情報

学業に精励し、人物健全な者で、次の各号のいずれかに該当する場合、授業料の減免または 納入期限の延長が認められる場合があります。

1. 生活保護法第6条第1項に規定する被保護者の世帯に属する者
2. 長期疾病、生業の不振又は失業のため、その生計が著しく不良となり、前号の被保護者に準ずる程度に困窮していると認められる世帯に属する者
3. 天災その他の災害により著しく損害を受け、学資の支弁が困難な世帯に属する者
4. 知事が別に定める基準により情報科学芸術大学院大学特別給費生として認めた者
5. その他知事が特に減免等の必要があると認めた者

ー 情報科学芸術大学院大学に対する大学評価（認証評価）結果

情報科学芸術大学院大学は、公益財団法人大学基準協会による2021年度大学評価（認証評価）の結果、同協会の定める大学基準に適合していると認定されました。

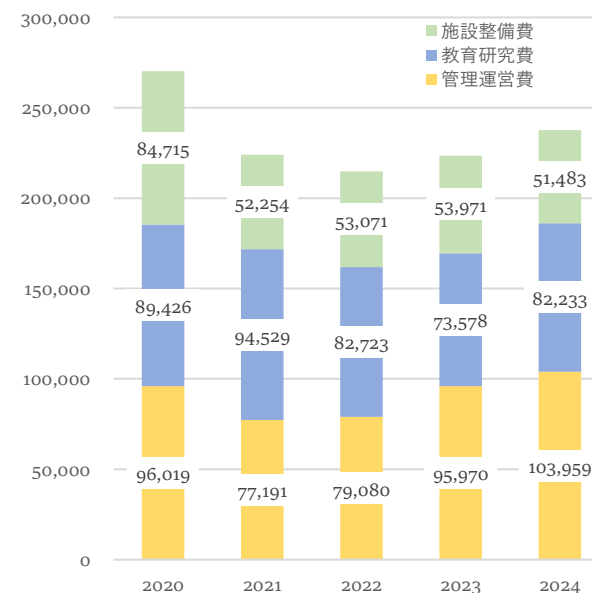
認定期間:2022年4月1日 - 2029年3月31日

ー 中期目標及び中期計画

情報科学芸術大学院大学中期目標及び中期計画を策定し、IAMAS WEBに掲載しています。（独立行政法人化されていない大学の策定は任意）

計画期間:2018年4月1日 - 2024年3月31日

ー 運営事業費(当初予算額)の推移(人件費を除く)



※2019年度は、管理運営費に学生寮外壁等修繕工事費を含む



学 生 支 援

- IAMASの学生は、多様な専門分野、様々な地域から入学があるため、進路についても多様な要望に対応する形で支援しています。
- 学生の皆さんが、研究や制作活動に打ち込めるよう生活についての支援も行っています。

- キャリアセミナー

学生が進路を検討するために必要な支援を行っています。

- 第1回キャリアセミナー 2024年4月5日(金) 午前 * オンライン開催
テーマ: OB/OGの紹介
- 第2回キャリアセミナー 2024年4月30日(火) 13:20~16:30 * 対面開催
地域における働き方の紹介
地方で働くメリットや案件獲得の戦略など、実例を交えてお話いただいた。
講師: 近藤崇司氏、富田太基氏
- 第3回キャリアセミナー 2024年9月24日(火) 13:20 - 16:25 * オンライン開催
在学生が進路を考える際に参考となるよう、身近な本学修了生からの声を聴く機会を提供しています。
今谷真太郎さん、鈴木浩さん、石郷祐介さん

- キャリアカウンセリング

学生一人一人に対し、担当教員が進路について面談を行っています。

- 国際交流員

海外出身の教員や交換留学生のサポート、IAMAS研究成果の海外発信などのため、自治体国際化協会(クレア)「語学指導等を行う外国青年招致事業(JETプログラム)」を活用し、国際交流員(Coordinator for International Relations [CIR])を受け入れています。
学生の研究活動にも大きな支援となります。

- 交換留学制度

IAMASでは、海外の教育機関との学生交流事業を実施しています。
このプログラムは、学生に海外で豊かな経験を積んでもらうもので、毎年2名が提携校に1~3か月留学するとともに、提携校の学生がIAMASに滞在し、互いに交流を深めます。

現在の提携校: リンツ美術工芸大学(オーストリア)

* 2023年度: M1学生2名留学、リンツ工芸大学学生2名を受入。

- 学生寮[RIST]

学生寮[RIST]は、IAMASから約1.3Kmの住宅街に位置し、ユニットバス、ベッド、電気調理器具など快適さと機能性を備えた生活空間となっています。また、学生が利用しやすい寮費としています。(オール電化のためガス調理器具・暖房は使用できません。)

大垣市藤江町1丁目1-7

全40室(洋間)



- 仮眠室

夜間の帰宅困難時はセンタービル2階に、仮眠を取ることができる和室があります。研究活動で疲れた身体を癒します。

- 保健室

月曜日から金曜日(休日を除く)の午前9時~午後3時45分の間はセンタービル3階の保健室に常備薬を置き、怪我の応急処置に看護師が対応します。健康に関すること、毎日の暮らしに関すること、精神面のことなどの相談に対応するほか、気分の優れないときには休養室で横になって休むことができる場所となっています。

- カウンセリングルーム

月に4~5回(火曜日または金曜日:12時30分~16時30分)、センタービル3階保健室2では、随時カウンセリングを行っています。臨床心理士の2名のカウンセラーが交代で対応します。

- シャワールーム

ドリームコア6Fにあるシャワールームを利用することができます。

入 試

- 入学生の獲得に向けて、毎年、進学相談会を実施するとともに、夏にはオープンハウスを開催しています。
- また、入試に関する相談や学校見学は随時受け付けしています。
- 県外での進学イベント、進学説明会、相談会とオンラインでの進学説明会を行い、入学生の獲得に取り組んでいます。

IAMAS OPEN_HOUSE2024

2024年7月20日(土)~21日(日)の2日間にわたり、「iamas open_house: 2024」を開催しました。昨年度に続き、IAMASキャンパスで開催するもので、間近で教員・学生の研究や作品、パフォーマンスを見ていただくとともに、進学相談会、進学説明会、学内ツアー等を通じて、教員や在学生との交流を図る機会となりました。

進学説明会

本学教育課程の主な流れと研究活動について紹介し、入試日程や入試方法、出願手続きなどについて説明しています。

日 時：2024年7月20日(土)～21日(日) 11:00～12:00
場 所：ワークショップ2 4 5 F R-cafe (対面のみ)

進学相談会

本学への進学を考えている方のために、本学教員が、受験、制作・研究の進め方、学校生活などの相談を受けています。

日 時：2024年7月20日(土)～21日(日) 10:00-17:00
場 所：ワークショップ 5 F (対面のみ)
参加人数：7月22日(土) 15名 7月23日(日) 18名



進学説明会・相談会

オンラインでの進学説明会

【第1回】

日 時：2024年5月10日(金)18:30-20:00
参加人数：47名

京都会場

日 時：2024年6月 8日(土)14:00-17:00
場 所：京都FRAME IN BOX
参加人数：5名

東京会場

日 時：2024年6月15日(土) 14:00-17:00
場 所：TIME SHARING 渋谷青山通り
参加人数：17名

